（別紙様式３）

令和４年３月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　愛媛県松山市一番町四丁目４番地２
管理機関名　愛媛県教育委員会
代表者名　　教育長　田所　竜二

令和３年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和３年４月１日（契約締結日）～　令和４年３月31日

２　指定校名・類型
学校名　　愛媛県立松山東高等学校
学校長名　和田　真志
類型　　グローカル型

３　研究開発名
東高がんばっていきましょい　－グローバルからグローカルへの挑戦―

４　研究開発概要
地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた持続可能な研究（以下「地域課題研究」）を中心とした教育課程の研究開発

⑴　グローカル・リーダーを育成するための地域課題研究プログラム開発【グローカル明教】
本校や松山、愛媛の歴史、愛媛の海外進出企業の研究をするとともに、松山市及びまつやま圏域の課題克服と魅力発信のための広範囲・高水準の研究テーマ群について、産官学の連携した協力の下、協働的研究を行い、資質・能力を伸ばす。

⑵　課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】
ア　英語の授業において５年間のＳＧＨ事業の成果を生かし、高いレベルのディスカッション力、ディベート力等を身に付けた語学力を育成する実践的な「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の授業を行う。
イ　内容言語統合型学習（Ｅａｓｔ　ＣＬＩＬ）を実施する全ての教科で、言語活動を充実させる。英語以外の教科を英語で取り組むことにより、語学力向上と異文化理解の深化を図るとともに、思考力・判断力・表現力・分析力を育成する。

⑶　学校環境のグローバル化
ア　ＳＧＨ部の活用
イ　海外修学旅行による体験的語学研修促進
ウ　海外留学及びアジア高校生架け橋プロジェクトを含む海外の留学生受入れ促進

エ　県内留学生、本県を訪れる海外高校生との交流
オ　俳句の研究・発信、俳句による海外交流、中高連携
カ　ＩＣＴ活用による情報活用能力、情報発信能力の育成

⑷　ＳＧＨで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築
ア　松山市を中心にした新たな教育資源を開拓
イ　新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築
ウ　松山市内の高校生と連携し、地域課題を議論する「松山市高校生地方創生会議」の主催
エ　「中四国ＳＧＨ高校生会議」を発展させた「中四国高校生地方創生会議」の主催
オ　他校でも実施可能な地域協働による課題研究プログラムの開発

5　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　　開設している　・　開設していない
・教育課程の特例の活用　活用している　・　活用していない

〇適用範囲：第１学年全生徒
教科：情報　科目：「情報の科学」　単位数１単位（標準単位数２単位）
〇適用範囲：第２学年（年次進行で実施）普通科　グローカルコース
教科：保健体育　科目：「保健」　単位数１単位（標準単位数２単位）
「総合的な探究の時間」（グローカル明教）の単位数をそれぞれの学年２単位で実施

6　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
井上　敏憲	四国地区国立大学連合アドミッションセンター　センター長	委員長
佐伯三麻子	松山東雲女子大学　教授	副委員長
金村　俊治	坊っちゃん劇場　支配人	
菅　　紀子	有限会社クラパムコモンカンパニー　代表	
寺村　尚起	三浦教育振興財団　監事	
安宅　　理	松山南高等学校　校長	
高岡　伸夫	松山市総合政策部　地方創生戦略推進官	

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機　関　名	機関の代表者	
松山市教育委員会生涯学習政策課	課　長	横山　　憲
松山市総合政策部企画戦略課	課　長	田中健太郎
愛媛大学社会共創学部	学部長	徐　　祝旗
松山大学人文学部	学部長	櫻井啓一郎
いよぎん地域経済研究センター	社　長	重松　栄治
えひめ地域づくり研究会議	代表運営委員	山本　　司
常盤同郷会	理事長	山崎　　薫
愛媛県社会福祉事業団	前理事長	仙波　隆三
愛媛県教育委員会高校教育課	課　長	島瀬　省吾
愛媛県立松山東高等学校	校　長	和田　真志

8　カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	梶原　春菜	元京都大学法学研究科助教	非常勤職員
地域協働学習実施支援員	嶋村　美和	元京都大学東南アジア研究所研究員	非常勤職員

9　管理機関の取組・支援実績

⑴　実施日程

業務項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
コンソーシアム			○									○
カリキュラム開発等専門家	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域協働学習実施支援員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営指導委員会			○									○

⑵　実績の説明

ア　カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

(ｱ)　カリキュラム開発等専門家

氏名：梶原　春菜

元京都大学法学研究科助教、５年間の本校ＳＧＨ特別非常勤講師、非常勤職員として雇用、月４回本校で勤務

(ｲ)　地域協働学習実施支援員

氏名：嶋村　美和

元京都大学東南アジア研究所研究員、５年間の本校ＳＧＨ特別非常勤講師「愛媛の国際化」「フィールドワーク入門」等担当、非常勤職員として雇用、月４回本校で勤務

イ　管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

(ｱ)　職員体制に関する支援

海外研修の実績を有するなど、優秀な教員の配置、ＧＬ担当教員のための教員の加配（常勤講師１人）、外国語指導助手専任の配置（１人）

(ｲ)　取組内容に関する支援

ＡＬＴの資質向上支援（外国語指導助手招致事業費）、生徒のディベート力の向上支援（英語ディベートコンテスト開催事業費）、生徒の国際交流支援（高校生国際交流促進事業費）※今年度は中止、研究に係る費用を優先して令達

(ｳ)　関係機関との連絡調整等

高大連携プログラム等を円滑に実施するための大学及び企業等との連携支援、海外フィールドワークにおける現地との交渉の支援

(ｴ)　運営に関する支援

運営指導委員会の年２回実施（６月28日、３月10日）

コンソーシアムの年２回実施（６月28日、３月10日）

えひめスーパーハイスクールコンソーシアム※の実施【発表と意見交換】（１月28日）

※愛媛県教育委員会が主催し、県内高校等が、指定を受けた各種事業の取組や、独自の研究実践について、その成果を広く高校生・中学生にまで普及する成果発表会

(ｵ)　事業終了後の自走を見据えた取組について

コンソーシアムの継続、海外交流の支援、教職員への支援などを行う。

10　研究開発の実績

⑴　実施日程

業務項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
ア　グローカル明教	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イ　坊っちゃんタイム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウ　学校環境のグローバル化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エ　コンソーシアムの構築	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

⑵　実績の説明　※第１学年全生徒：361人　第２学年ＧＬコース生：97人
第３学年ＧＬコース生：80人

ア　研究開発の内容や地域課題研究の内容について

⑺　グローカル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発【グローカル明教】

ａ　グローカル明教Ⅰ　第１学年全生徒

⒜　アイデンティティとグローバル

【目的】坂の上の雲ミュージアム及び公益財団法人常盤同郷会の協力を得て、秋山兄弟生誕地等の史跡でフィールドワークをするなど、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力について探究させ、アイデンティティの確立を図る。

【内容】講演及びフィールドワーク
・講演「これからのよのなかの話をしよう」
・市内フィールドワーク（秋山兄弟生誕地・坂の上の雲ミュージアム）

⒝　アジアと愛媛の企業

【目的】学習院大学の教授の指導の下、いよぎん地域経済研究センターの協力により、愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について探究学習を行う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを交えて実施し、フィールドワーク報告会により、グローバル化への理解の深化、問題解決力、コミュニケーション能力の育成を図る。さらに、フィールドワークで知り得た内容を学年全体で共有する。

【内容】講演及びフィールドワーク
・講演「企業の見方＆地域産品のマーケティング」
・県内企業フィールドワーク代替講演（三浦工業、アテックス）
・海外フィールドワーク代替交流（北京月壇中学、台湾國立中興大学附属高級中学校、三浦工業（中国蘇州・台湾・韓国・インドネシア）、フィリピン大学附属高校、フィリピン渦潮電機）

【変更】新型コロナウイルス感染拡大防止のために、講演会はすべてオンラインで実施。また、県内企業フィールドワーク及び海外フィールドワークは中止とし、オンラインでの講演や交流会を代替として実施。（フィリピンとの交流は２年生対象）

ｂ　グローカル明教Ⅱ　地域及び世界の持続的な発展のために　第１学年全生徒

【目的】コンソーシアムの一員である、愛媛大学・松山市の協力を得て、地域や世界の持続的な発展のために必要な知見を得るとともに、課題解決のための実践的で協働的な研究活動を行い、グローカル・リーダーとして必要な国際的素養の育成、高度な語学力・コミュニケーション能力や地域マネジメント力（問題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成を図る。

【内容】講演及び課題研究、発表会
・「地域社会の持続可能な発展に向けて－今、なぜグローカル人材が求めら

れるのかー」
・「世界共通のゴール『ＳＤＧｓ』の達成に向かって～足元から世界とつながる！～」
・「いい、加減。まつやま」「笑顔のまつやま　まちかど講座」
・課題研究　20テーマ　26時間実施、本校教員が指導、研究成果発表会（３月）

ｃ　グローカル明教Ⅲ　グローカル課題への取組　第２学年ＧＬコース生対象

【目的】高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を行うためグローカルコースを設定し、課題研究の深化を図る。地方創生のための課題研究を通して、地域マネジメント力（課題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成とともに、コミュニケーション能力・思考力・表現力の育成を図る。

【内容】個人及びグループによる課題研究、発表会
・課題研究　14テーマ　48時間実施
講師：愛媛大学・松山大学・松山市職員・病院勤務医・元大学教員他20人
・発表会　１・２年合同中間発表会（12月）及び研究成果発表会（３月）

ｄ　グローカル明教Ⅳ　グローカル課題の解決と発信　第３学年ＧＬコース生対象

【目的】グローカル明教Ⅲから引き継ぐ協働的探究活動及び研究論文の作成、成果の発信を行い、地域マネジメント力（課題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成とともに、コミュニケーション能力・思考力・表現力の育成を図る。

【内容】個人及びグループによる課題研究、発表会
・課題研究　13テーマ　26時間実施
講師：愛媛大学・松山大学・松山市職員・病院勤務医・元大学教員他13人
・発表会　　ＧＬ事業研究成果発表会（９月）

㈾　課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】

第１学年は全生徒を対象とし、各学期２科目（各１テーマ）で実施、全６テーマ

第２学年も全生徒を対象として各学期１回実施。医療系分野の内容を、科学誌や複数言語の講演会を視聴できる動画コンテンツ「TED Talks」から教材化して行った。

㈿　学校環境のグローバル化

ａ　ＳＧＨ部の活動 41人

グローバル・リーダーとしての資質・能力の伸長の加速化を目標とし、校内啓発活動、国際協力・交流活動に取り組み、その成果を様々な機会に報告している。

⒜　校内啓発活動

インターナショナルデー（国際交流）、市内高校生交流会・勉強会（ＳＤＧｓ勉強会）、フェアトレードの啓発活動、フードドライブ

⒝　国際協力・国際交流活動

ハワイ・シンガポール・台湾の高校とのオンライン交流、ビデオレターの制作（ウガンダ・シンガポール・台湾・フィリピン・アメリカ・中国・ハワイ）

⒞　対外的コンテスト・大会への参加

全国高等学校グローカル探究オンライン発表会・四国高等学校国際教育生徒研究発表大会・全国高校生フォーラム・JICA国際協力高校生エッセイコンテスト

⒟　交流・イベント・研修への参加

三菱プロジェクト探検隊・Future Global Leaders Camp・日露オンライン日本語履修高校生交流プログラム他

ｂ　その他の取組

⒜　海外修学旅行等による体験型研修促進

本年度も、アメリカ（ロサンゼルス）及び、シンガポール・マレーシアの修学旅

行を計画し、約３分の２の生徒が在学中に海外を体験できる体制を整えていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため中止となった。台湾・中国・フィリピンへのフィールドワークも中止となり、代替活動としてオンラインで訪問予定の企業及び学校との交流を行った。オーストラリアでの語学研修も中止としたが、昨年度と同様にオンラインでの語学研修を宇和島南中等教育学校と協力して３月に実施した。

⒝　留学生の受入れおよび留学の促進

本年度はアジア高校生架け橋事業による留学生を１名引き受けた。また、例年行っている「トビタテ!留学ＪＡＰＡＮ」の説明会は、来年度募集が行われないため、中止した。

⒞　海外高校生との交流

本年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、本校に迎えることができなかった。しかし、課題研究やフィールドワークの代替活動・ＳＧＨ部の活動で、オンラインを活用し昨年以上の多くの海外高校生と交流を図ることができた。

イ　地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な探究の時間，学校設定教科・科目等）

㈠　第１学年　「総合的な探究の時間」（週２時間）で実施。

松山市シティープロモーション課及びまちづくり推進課による講演、松山市タウンミーティング課主催「笑顔のまつやま　まちかど講座」を利用しての各政策担当者による講義、地域活性化に取り組んでいる愛媛大学や学習院大学の教授、元地域まちおこし協力隊員からの講演、坂の上の雲ミュージアム・常磐同郷会と協力した市内フィールドワーク。

㈡　第２学年　「総合的な探究の時間」（週２時間）で実施。

愛媛大学及び松山大学の教授、松山市総合政策部企画管理課及び松山市選挙管理委員会の職員、県病院勤務医、民間企業研究員等の指導による探究的な活動である課題研究を実施

㈢　第３学年　「総合的な探究の時間」（週１時間）で実施。

愛媛大学及び松山大学の教授、松山市総合政策部企画管理課の職員、元大学准教授の指導による探究的な活動である課題研究を実施。

ウ　地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

第１学年でのグローカル明教の課題研究においては、昨年度から本校教員が課題研究のテーマを設定し、その中から生徒がグループでテーマを決定し課題研究に取り組んでいる。全教科の教員が参加することによって、それぞれの得意の分野と地域課題を連携させながら課題研究に取り組んでいる。

また、Ｅａｓｔ　ＣＬＩＬでは、英語科と各教科が連携し、学習内容の定着と英語でのディスカッション力やプレゼンテーション力の育成を図っている。

エ　地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラムの作成については、本校の校務分掌では、グローカル事業課（以下ＧＬ事業課）と教務課において作成し、全教科の教科主任及び関係各課長が参加する教育課程検討委員会を年３回開催し、内容を検討しながら運営している。また、各学年でのグ

ローカル明教においては、月１回の学年会で共通認識を図っている。

オ　学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内での位置付け）

全校体制で本事業は推進するが、中心となって本事業を運営する校務分掌として、ＧＬ事業課を設置している。本課に所属する教員は、計画立案、本事業の円滑な実施、考察、事業計画の改善を図っている。課題研究は、課題研究チームをつくり、ＧＬ事業課の担当者とカリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員が協働して活動し、学年団が担当する課題研究の外部機関との連絡・交渉、研究内容についての支援を行っている。また、海外交流事業は、海外交流チームをつくり、ＧＬ事業課の担当者とカリキュラム開発等専門家が協働して、海外フィールドワークの企画・立案・交渉、学年団が担当する海外修学旅行の支援、英語科と協働して行う海外留学の促進事業や留学生受入事業を行っている。

カ　学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

本事業におけるそれぞれの内容については、ＧＬ事業担当者が具体的な案を立案し、校長決裁を受けたものを、職員会議にて全教職員で共通理解を図りながら推進している。成果の検証・評価については、以下のように行っている。講演については、その都度生徒へのアンケートを行い、内容についての検討と次年度の内容の検討を行う。課題研究においては、各担当者からの聞き取りを行うとともに、学年会で議論し、実施内容の確認と改善を図る。また、総括として生徒保護者対象に３年生は10月に、１・２年生は２月にアンケートを実施し、１年間の本事業の検証を行うとともに次年度の計画に生かすように努めている。

キ　カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

郷土や世界の持続的発展のために貢献できる人材の育成を目指して、コンソーシアムの産官学それぞれの立場からの指導助言を受けている。松山市からは、地域の魅力や課題について実務者から直接話を伺うことで、生徒への意識付けに繋がっている。本年度は、昨年度中止した市内フィールドワークを、感染対策を図りながら松山市の協力の下、実施した。また、愛媛大学や松山大学からは、課題研究の直接的な指導だけでなく、「今なぜグローカルなのか」や「今なぜＳＤＧｓなのか」などの根本的な知識や理論を学ぶことで、生徒の思考力や判断力の向上に繋がっている。さらに、各企業からはグローカルに対する取組や、社会貢献の在り方について学ぶ機会を得ている。

ク　類型毎の趣旨に応じた取組について

本校指定のグローカル型においては、グローバルな視点の育成と郷土の課題の解決に貢献できる人材の育成を目指している。

グローバルな視点の育成のために企画していた多くの内容は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために本年度も中止となった。しかし、その中で駐日欧州連合代表部主催の「ＥＵがあなたの学校にやってくる」を３年連続で実施した。また、外務省主催の「高校講座」を新たに実施したり、海外フィールドワーク参加予定者には、現地企業や交流予定校とのオンラインでの交流を行ったり、ほぼ毎月実施しているＳＧＨ部主催のインターナショナルデーには、県内在住の留学生や外国人を招いて交流を行うなど、グローバルな視点の育成に努めることできた。

また、郷土の課題解決に向けては、本年度も松山市の全面的な協力をいただいた。総合政策課に加えて松山市選挙管理委員会から探究的な学習における講演や講座の開設、

課題研究における講師派遣をしていただいた。愛媛大学や松山大学との連携についても、昨年度までと同様に課題研究での指導や講演などに協力を得ることができ、生徒の高いレベルでの知的好奇心を喚起することに繋げることができている。

ケ　成果の普及方法・実績について

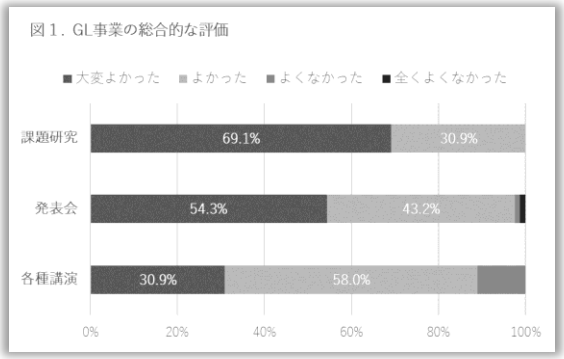
本年度の活動内容については、適宜本校ホームページで発信している。９月には、３年生によるＧＬ事業研究成果発表会を、感染症対策を十分に行い公開で実施した。12月には１・２年生合同中間発表会を実施し、本校関係者のみではあったが公開した。また、３月には本校で研究成果発表会を、県内限定で公開して実施した。

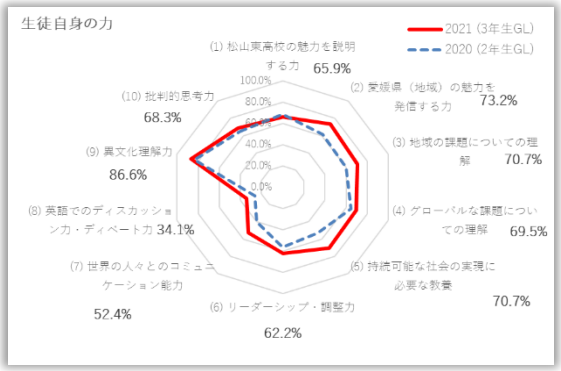
ＳＧＨ部が主催して行っている市内高校生会議を本年度も定期的に開催し、市内高校生とともに課題に取り組む体制を構築し、成果の普及を図っている。また、第６回中四国高校生会議もオンラインで開催し、交流の機会の確保に努めている。

11　目標の進捗状況，成果，評価

本年度は、昨年度に比べるとオンラインでの取組に各関係機関が臨機応変に対応してくださったことにより、多くの事業を実施することができた。また、感染状況を考慮しながら、昨年度実施できなかった市内フィールドワークを実施したり、新たな取組である大阪大学フィールドワークを実施したりするなど、グローカル意識の向上への取組を行うことができた。

本事業の中心的な内容である「グローカル明教」は、この３年間で内容も精査でき、今後も継続できるカリキュラムとすることができた。１年生では、グローバルな視点の育成や地域理解に繋げる講演会や講座を前半で行い、知識や思考力・判断力の育成及び地域や世界の現状や課題について理解を深めさせることができている。県内企業フィールドワークや海外フィールドワークが中止となり、生徒の貴重な体験の場を提供することはできなかったが、オンラインによる代替の講演や交流により、地元企業のグローバル化への取組、地域企業としての在り方、地域貢献の考え方を学ぶ機会を提供できた。後半で行う課題研究では、本年度も本校１年団の教職員が主導する研究活動を行った。各教員による創意工夫により、様々なテーマで研究活動を行うことができ、また生徒自身もグループでの協議を重ね、研究をポスターにまとめることができた。自分達で創意工夫した課題研究の評価は、自己評価の中でも非常に高くなっている。２年生では、ＧＬコースを設定し、研究意欲の高い生徒97名を対象に、高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を実施した。12月にはポスター発表会、３月にはシンポジウムを実施し、地域や世界の持続可能な社会に貢献する意欲や深い教養、課題発見力や問題解決能力・コミュニケーション能力等の育成を図ることができた。３年生では、80名が２年時に行っていた研究を継続し論文にまとめ、９月には全員が研究成果についてプレゼンテーションを行った。３年生の本事業に対する評価は、





９割近くが、各種講演、課題研究、発表会のいずれについても、肯定的に評価しており、特に課題研究については、全員が肯定的な評価を行っている。本校独自の外部連携による課題研究が、効果的に機能しているためであると考えられる。

学校環境のグローバル化においては、感染症拡大防止の対策を十分行いながら、昨年度の経験をもとに多くの活動を工夫して実施することができた。ＳＧＨ部を中心に、定期的な市内高校生会議、留学生などを招いて行うインターナショナルデーや、海外の高校生とのオンライン交流、６回目となる中四国高校生会議の主催など、様々な交流の場の提供や本校の取組の普及活動にも繋げることができている。

コンソーシアムとの協働体制も過去２年間の活動同様に、強固なネットワークの構築によりスムーズな事業運営を図ることができた。また、愛媛大学・松山大学とは新たな連携協定を結ぶ準備ができ、来年度以降も本事業と同じ内容を実施できる体制を整えることができた。

＜添付資料＞目標設定シート

12　次年度以降の課題及び改善点

本事業の取組を、次年度以降も継続できるように、本年度は取り組んできた。本事業の中心である課題研究は、１年生はグループによる共同研究を本校教職員指導の下、全員で取り組み、２年生以降は希望者によるグループ及び個人研究を外部講師の指導の下、実施できる体制が確立できた。外部講師への謝金についても、同窓会が設立した「松山東高校グローバル人材育成振興会」の基金などを活用することで、対応できる目処をつけることができた。しかし、個別の内容で見た場合には、依然として課題と改善点が残されている。

まず、１年生の課題研究における指導教員の意識統一である。本年度は、多くの講座でフィールドワークや外部講師を積極的に活用した取組が行われ、課題研究に対する教員の意識の向上も見られたが、一部で調べ学習に終わった講座もあるなど、取組での差が見られた。課題研究に対する定期的な研修などを企画し、統一した指導ができるように改善していく。また、テーマ設定で悩む教員も多いため、本年度は過年度の課題研究を検索できるよう準備し対応したが、来年度以降は、さらに過年度の研究を引き継げるような形も準備していく。

次に、２年生のＧＬコースは外部講師の関係で定員を決めている。来年度の２年生のＧＬコースへの希望者も定員を超え選考を行った。また、アンケートの中に「希望する内容の講座がなくＧＬコースを希望しなかった」という生徒が複数いた。希望者全員が受講できるように、また多くの分野の講座が開設できるように、来年度以降、新たに結ぶ愛媛大学及び松山大学との協定を活用し、取り組んでいく。３年生は外部講師の関係で、来年度は論文作成を行わない。その代替として、２年次の課題研究抄録の英文化や各種コンテストへの応募、外部への情報発信などの取組を行わせる。

昨年度も課題として挙げていたが情報発信については、ホームページ上での情報発信のみになっており、課題が残る。ＳＧＨ事業から本事業まで、カリキュラムとしては成熟し、事業は円滑に進んでいる。「松山東高校グローバル人材育成振興会」の協力者を増やすためにも、動画作成やＳＮＳ活用などホームページ以外の情報発信を行う体制を学校全体として構築していく。

【担当者】

担当課	高校教育課	ＴＥＬ	０８９－９１２－２９５４
氏　名	近藤　啓司	ＦＡＸ	０８９－９１２－２９４９
職　名	指導主事	e-mail	kondou-keiji@pref.ehime.lg.jp